

## 足音

意思無きままになぞられる詩句がたなびく  
それらを容易に惹きつけるであろうところの  
生を忘却し、蹂躪する欲望無き興奮  
その整然とした足音が遠くから近づきつつある

御前を抑圧する世界というものに目を伏せ  
そこから、しかもそこへ逃亡するために破壊の限りを尽くす  
そのようなものから湧き出る詩句が呼び出すものこそ  
縛り首にすべき抑圧者そのもの

膚と膚がふれあうときの深い温かさを忘れたならば  
自らの左手と右手をゆっくりと絡ませてみるがいい  
殺戮と復讐で塗り潰されたその部屋へ  
御前自身へと連綿と引き継がれた生命を解き放つがいい

近づいてくるあの足音に耳を澄まし  
おお、手を携えて備えよ

(2005.8.8)